○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時１５分）

◎議案第４９号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君）　日程第12、議案第49号　平成24年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君）　議案第49号は、平成24年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定についてであります。

詳細は担当課長をして説明申します。

（企画観光課長　山本　公君　説明）

○議長（稲葉昭宏君）　以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○８番（一瀬寿一君）　先月まで監査をやっていたということで、あまり内容のことにつきましては、差し控えるところは差し控えますが、ちょっと次の３点、これは質問をしたいと思います。

まず、第１点は、労務管理、それと、財務管理、営業運営管理、こういうことで、細かく申し上げますと、実際、まつざき荘の今の職員、公社の職員ということになるでしょうが、この職員がいろんな事情で次から次へ辞めていく方がある。かたや将来安心ができないと・・、そして、またここで２～３辞めたいという方がいる。非常に労務管理に関するあれが私は悪いんじゃないかなと。

こういう状況ですと、まつざき荘を運営できるような状況じゃないと私は思う。これがまず第１点。今後その辺がどうなるのか、そして、給与面、ボーナスもそうだと、すべて普通の民間よりも給与もボーナスも低いよというような声も聞いております。こういうことで、今後こういう運営をしていかれるのか、いかれないのか。

それと、２つ目は、前回の宿泊運営委員会に私は出席させてもらったけれども、前年対比増になっているよと言っているけれども、これは監査の時もうんと指摘していますけれども、前年対比といっても23年度は３．１１のあれがあって、相当下がっている、それに対して上がるなんていうのは当たり前のことだと・・、前年対比増になって良かったよ、過去のオープン時代からずっと調べていくと、相当の額が減っています。これは調べてあるかどうか、当然データが出ていますから、すぐわかるかと思います。こういうことで、この運営が本当に自信を持ってやれるのかどうかということを私は聞きたいわけです。

それと、この委員会の中で民間がいいか、５年間指定管理者をやった振興公社を反省もなく、５年間やった状況の反省が本当になくて・・、民間会社のシダックスが来て、説明を受けました。説明を受けたけれども、その後は、手法が非常に悪いというのは、そこで私は絶対賛成も反

対も一切していませんけれども、議場で私は言いますということで、何もそこでは言っておりませんけれども、何で民間のシダックスという会社に説明させておきながら、次には、指定管理者を振興公社に５年お願いしたい・・、これはちょっとおかしなものだなと私は非常に不愉快というか、ちょっと手法が違うんじゃないか。まず、５年間やった実績とか、その評価を受けて、やるべきか、やらないべきかということであるならば、大変良かったと思うのですが、そして、その間に民間のあれを説明させておいて、いきなりその話なしにですよ。次に振興公社にぜひやらせてください。これは私はおかしいと・・。

町民である・・、委託費を受けて赤字、赤字できて、私は常々これは言っているわけですけれども、こういうことになっているんだったらば、もう民間会社に委託しなければならない時に来ているんじゃないかというふうに思いますが、その３点ですね。労務管理についてと、それから、財務管理ですね。財務の方も非常にいま基金というか、預金残高も７千何百万円ですか、なくなってきている。そういったこと、今後の運営をしていくと、これは１～２年で終わりになります。

なんか町長は 7000～8000 万円まだ金があるからいいよというような話も聞いたけれども、とんでもない。そんなものは１年か２年でもうなくなっちゃうと、じゃあ、次の資金はどういうふうにするか、そういうことも私は、今後どうするかということを聞いている。

それで、営業方針も、営業のことも要するに、今後どのようにして、どういうふうにやるのかもまったく見えていない中で、いきなり、早い話が丸投げだ。私から言わせるとですよ。

そういう・・、言いたい放題私も言っていますけれども、それが本当の現実ではなかろうかと思いますが、その３点をよろしくお願いします。

○町長（齋藤文彦君）　その３点というのは、足らないところは課長に話をしてもらいますけれども、自分のことを話してみたいと思います。

今年度の赤字が 2600 万円あるわけですけれども、こういうことを言うとあれですけれども、非常に厳しい中で、これだけよく頑張ったなと私は思っているところでございます。

それで、従業員が不安だ不安だというのがどういうところから来ているのかよくわからないところがあるわけですけれども、この平成 24 年度の決算を見ると、食事材料費とか、飲物材料、売店材料、職員、備品の消耗品とか、町内で仕入れたお金が 4000 万円以上になります。それで、これに雇用の問題、また、先ほど出ましたけれども、温泉、水道のことがありますけれども、これはまつざき荘がこの町内に及ぼしている影響というのは、私はものすごく効果があると思います。

企業誘致とか何とか言いますけれども、私はこれは一つの企業誘致だと思って、これだけの人が雇えて、これだけの材料が松崎で消費されるということは・・、そして、２億 6000 万円からのお金が松崎町に落ちるということは、ぜひ今までどおり私は振興公社を中心にしてやっていきたいなと思っているところでございます。

それで、この振興公社がある程度続けていくということになると、やっぱり従業員の方も安心して働けることになるのではないかと思っています。それで、いろいろ考えた末、今度は施設管理者というのを１人置いて、振興公社、まつざき荘、行政ということで、本当に何と言います

か、３人で話し合って、うまくいくような体制を取っているわけで、その民間委託うんぬんの話が出るわけですけれども、民間委託にすると、やっぱり話を聞いていますと、仕入れは全部向こうから持って来るというようなことがありますし、雇われている方も最初は全部雇うけれども、だんだん時が経つにつれて減らされていくようなことを聞いていますので、

私は、まつざき荘というのは、振興公社で継続させていきたいなと思っているところです。ただ、最終的には議員さんの、皆さんの決議がいるわけですけれども、なるたけ早くしたいわけですけれど、振興公社にいくとこうなる、民間委託するとこうなるというようなものを皆さんに目に見える形で、早くしてやっていきたいなと思っているところです。

いま一生懸命やっていますので、近い将来そのような形ができてくると思いますので、その時には議員の皆さんにちゃんと白黒つけてもらいたいなと思っているところです。

ただ、いろいろ考えているわけですけれども、私はやっぱり振興公社で・・、本当の・・、何と言いますか、ちょっと自分たちも力を出し・・、本当に協力できなかったというようなところが私の中にもありますので、本当にこれは自分たちで振興公社を中心にやってみて、どうしてもだめだったということになったら、いろいろ民間のことも考えたいと思いますけれども、２年間くらいは本当に自分たちで一生懸命やってみたいなというような気持でございます。

足らないところは課長の方から回答します。

○企画観光課長（山本　公君）　労務管理の問題あるいは財務運営あるいは営業の問題、いろいろ触れておりまして、振興公社にお願いをしてやっているわけですけれども、今年度より施設管理係長ということで１人専任で置きまして、何とかともにやっていきたいということの中で、いま頑張っているところでございます。

一瀬議員におきましても、監査委員の時に叱咤激励というか、いろいろアドバイスをいただいていまして、できるだけ改善をしていきたいというようなことで努めているところでございます。

労務管理の関係につきましても、そのあたりも24年度分というのはもう終わってしまいましたけれども、町と一緒になって、考えていく、足らざるところは補っていくみたいな部分でやっていくということで考えております。

給料面の関係につきましては、期末手当、ボーナスなんかの関係で当初、前はかなりあったものがかなり減っているという部分もございますけれども、それも皆さん頑張っていただいて、できるだけ上がっていくような形でやっていただければ、ありがたいかなと思っております。

営業の問題につきましては、24年度はインターネットの関係ですとか、あるいは自動車学校の利用ですとか、あるいはサポーター会員みたいなものの活用ですとか、共済組合ですとか、そういったものを軸に置いて展開をしているところでございます。

なかなかプラスになるというところまでは行っておりませんけれども、改善に向けた努力はしているところでございます。

赤字の関係につきましても、確かに、東日本大震災等の関係がございまして、そういったところを基準にしてはまずいよというようなお話でしたけれども、確かに、最初の指定管理を受けました３年間、18年から20年まではプラスで推移をしておりました。21年以降、2000万円と

いうことのマイナスが出まして、22年、23年におきましては、4000万円台のマイナスが出ているというところでございます。

補正予算におきましても、今年度の見込みとして、3100万円くらいの赤字になるのではないかというようなことでありましたけれども、2600万円というような数字になったわけでございます。改善とはいいつつも、まだまだマイナスだということでありますので、引き続き努力をしていかなければならないと思っております。

それから、指定管理の関係につきましては、町長がお話したとおりでございますけれども、いろんな選択肢がある中で考えた結論として、まつざき荘を振興公社の方に任せていく方がいいじゃないかというようなことで、町長は答弁されていると思いますので、また、議会におきましても、ご説明をさせていただく機会というのは今後設けさせていただくようになると思いますので、よろしくお願いをいたしたいと思います。

○８番（一瀬寿一君）　町長の方は振興公社へ頼みたいと、その気持ちはよくわかります。いろんなことで、先ほど言われたような、町内業者にはそれだけの発注があるよと、雇用関係もあるよと、しかし、あくまでもこれは例えば、民間とやる場合には、そういったことを町内の人の雇用を原則これでお願いするよとか、契約書にうたうとか、町内業者から仕入れもするんだよと、例えば、１年１年の契約、いろんな手法があると思うんですよ。ただし、今の状況だと私は絶対納得できないというのは、親方日の丸のような形でやっているわけですよ。早い話が、町長の耳には入らないかもしれないけれども、みんな何を言っているかということは町長はわかっていないと思う。私らにはそれは・・、今の段階でいくと、行政が・・、要するに、企画観光課が振興公社にやって、振興公社がまつざき荘にやっている。まつざき荘の支配人がいるんだけれども、なにせ、支配人の話なんかは行政の一番上の方には通じていかない。みんなが何を言っているか、それを私は、労務管理がなされていないんじゃないか、そして、辞める人がどんどんいるよと。辞める人がいるということは、営業できなくなる、そこのところをもっと把握しなければいけない。やるならやるような姿勢をとっていかなければ私はだめだと・・、私はどちらかと言うと、企業の方の、議員というよりも企業家の方を私は実を言うと優先しています。

ですから、人の気持ちもわかる。しかし、営業は利益を出さなければいけない。そういった中で、この間の宿泊委員会の中の・・、舩津君は大変いろんな説明をしてわかりましたけれど、私は納得できないのは、いきなり説明をして、シダックスの説明をしました。そうしたところに、そのシダックスがどうとかこうとか、話の議論はまったくなくて、いきなり今度は振興公社の決を採っちゃった。そういう手法なのかなと。行政というものはこんなことでやるのかなと、私はつくづく思ったわけですよ。

それで、５年間の・・、皆さんは赤字だ、赤字だと言っている中で、これだけ町民の皆さんが心配しているんです。委託費なしで利用料金制で民間に委託する方法がよっぽどいいと世間では言っています。

その辺をもう一度町長、答弁をしてください。

○町長（齋藤文彦君）　私も管理者としてまつざき荘にはよく顔を出しているわけですけれども、役場と振興公社とまつざき荘と本当に意思を通じ合ってやっていると私は思っているわけです

けれども、一瀬議員にはそう見えると・・、一瀬さんは経営のプロですから、そのように見えたら非常に残念なわけですけれども、まだやれる余地は充分にあるなと私は思っているところでございます。

それで、うまく話せませんけれども、そのような感じでいけるのではないかなと私は考えているところでございます。

○副町長（松本忠久君）　いま宿泊施設整備委員会での対応の話が出ましたけれども、これは、実は、ちょうどその時、一瀬議員が委員交代されて初めての会議だったものですから、たまたまそういうふうに見えたのかもしれませんけれども、前々から、昨年度からずっと宿泊施設整備委員会の方では検討を進めていただいておりまして、民間企業からもこういう話がありますよという話は内々といいますか、会議の中では説明してあったわけです。たまたま間に職員が入って、また聞きみたいな形で報告したんじゃ、委員さん方も理解できないだろうと、直接業者を呼んで、話を聞いてもらうのも一つのいき方ではないかということで、ああいう形になったわけでございます。

それで、決算書を見ていただきますとわかるように、まつざき荘事業会計としては、現在７億円近い借金を抱えているわけでして、年々元利償還に6000万円どうしても必要なわけです。それが、埋めきれなくて、この赤字ということになっているわけで、もし民間企業で、もしその6000万円を埋めて、町の方から持ち出しがないような形でやってくれるというような企業があれば、それはそれでまた検討してみる価値はあるのかなというようなことで判断しておりますけれども、どうも話を聞いて・・、私は直接そういうきな臭い話はしていないわけですけれども、担当レベルで話をしていく中で、どうもそれは埋めきれないというような状況でございますので、そういう状況で民間委託ということで契約いたしますと、最初からもう赤字が固定されてしまうというような状況になるわけです。その上、仕入れについては、町の業者を優先して取るというような状況にはない状況であるというようなことの判断もありまして、先ほど来町長がお答えしているようなことでいま考えているということでございます。

◎会議時間の延長

○議長（稲葉昭宏君）　お諮りいたします。

本日の会議時間は議事の都合により、この際予めこれを延長したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　異議なしと認めます。

よって、本日の会議時間は延長することに決定いたしました。

質疑を続けます。

○８番（一瀬寿一君）　副町長は6000万円の借金と・・、6000万円の返済財源で民間がどなたが受けるかと、受けるはずがありませんよ。最初からね。選択肢として、まず最初に、振興公社にこれでいいのかどうか、そして、理事長が町長でいいのかどうか、そういうところの選択肢もあ

るわけですよ。

だから、そして、民間委託か、売却か、いろいろ手法はあるんです。選択肢は。だから、そこを考えて、6000 万円で借りる人なんて・・、公募したって誰も来やしません。

例えば、家賃として毎月 300 万円くらいの家賃でどうだろうか、運営してくれる人があるだろうかなと。そして、職員は全部松崎の人間を使う、仕入れも松崎町から仕入れてくれる、これでやってくれる業者があるのかどうか。これはこちらから条件を出さない限り相手がわかりっこないでしょう。ただ、これはやってくれないだろう、あれはやってくれないだろうなんて言っていちゃあこれはだめだと思う。前に進まない。

町長がさっき言った、それだけ本当に本腰を入れてやりたいというなら、もうちょっとはっきりした鮮明な計画書でも何でも出してくださいよ。でなければ、我われも別にまつざき荘に対して反発しているわけではありませんよ。

しかし、もう 40 数年、半世紀まつざき荘はその役目を終わっているんですよ。当初はみんな一生懸命やりましたよ。半世紀ですよ。約 50 年近くになるわけですよ。だから、そのシンボルはもう既に終わって、そろそろ切り替えをしなければならない、考えをしなければならない。

町長だって、この 12 月に町長選挙がある。これが一番・・、まつざき荘問題、振興公社にやらせるか、やらせないか、これは一番の町長の問題ですよ。

だから、そういうことも考えながら、やっぱりしかと考えていかないと私はだめだと思う。焦点がそこにあるんじゃないかなと私は思っています。何でも今までのものをただ引き続ければいいやと・・。

なんか・・、町長、私はもっと言いたいけれど、前任の方々にやれよと言われているのかどうか、これはやめるなよと言われているのか、ちょっと私も奥歯に物が引っかかるようなことがいろいろあるわけで、その辺をもう一度お願いします。

○町長（齋藤文彦君）　その前任の方にやれよということは、ちょっと意味がわからないです。

○８番（一瀬寿一君）　要するに、オープン当時の責任者が、あれはずっと引き続いてやってくれよという、要するに引き継ぎ事項か何かがあるのですか。そういうことを私は言っているんですよ。だから、それが別に問題なければ、いつでも決断ができるのではないかと言っている。

○町長（齋藤文彦君）　引き継ぎ事項とか何とか、それは全然ありません。ただ、私は、一瀬議員がまつざき荘は使命は終わったというようなことを言ったわけですけれども、まだこれから本当にグリーンツーリズムの総本山として、これからもっと活躍してもらわなければいかんと思っていますので、私はそのようにやっていきたいなと思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

○７番（関　唯彦君）　一瀬さんが言った委託の問題は、これは決算ですから、また新しい議案として出てきますので、私は決算について聞かせていただきます。

今年度 2600 万円、実質的にはもう少しいっていますよね。減価償却等を入れると 2800 万円位になるんですけれども、なぜこれだけの赤字が出たのか。この 24 年度の決算を見て、運営してみて、理事長である町長、どういうところが問題があったのか、この３年間、町長は頑張る、頑張ると言うのはいいんですよ。口で。毎回予算の時に。

ですけれども、毎回毎回赤字が出て、24 年度も赤字が出て、どこがどうだったかという、その反省を聞きたいと思うんですけれども、結果を。2600 万円赤字が出たという、どこが問題があったのかということをちょっと説明していただけますか。

○町長（齋藤文彦君）　こんなことを言うとあれですけれど、やっぱり今はちょっと時代が非常に厳しいかなというのが一つあると思います。こっちの営業の方ですけれども、体験型商品の開発とか、友の会サポータークラブの関係、営業強化の関係、ネット予約の関係、自動車学校の営業強化の４つとかを目標にやってきたわけですけれども、このやり方がちょっと弱かったのかなというようなところがあります。まだいろいろありますけれども、内部の人の人間関係というのも若干あるのかなというようなことを思っています。

私は、まつざき荘というのは、松崎の皆さんに好かれる宿泊施設になれよと言っているわけですけれども、なかなか自分の思いが皆さんのところまで伝わっていかないのがあるのかなというようなところがあると思います。

いろいろ問題はあると思いますけれども、そのようなことがいろいろ絡まって、このような赤字になっているのではないかなと私は思っているところでございます。

○７番（関　唯彦君）　いま話を聞きましたけれども、いろいろ出ていますけれども、私は、この 24 年度を見て、やはり町長のやる気が出てきてなかったんじゃないかなというのが・・、つくづく思います。それはなぜかと言うと、どうも私が伊豆まつざき荘を見ていて、赤字になった原因というのは、やはり研修ですとか、いろんな所に、この日本国内でも素晴らしくうまい営業をしている所がありますよね。宿泊だけじゃなくてね。観光に関して。そういう所の研修が充分されていたのか、または、その素晴らしい所から誰か１人引っ張ってきて・・、いま町長が理事長をやっていますけれども、理事長に据えるとか、いろんな案があると思うんですよ。そういうものが欠けたために、町長のやる気がなかったためにこういう結果になっているんじゃないかと思うんですけれども、そういう・・、銀行のものを入れたりとか、いろんなことを町長は言っていましたけれども、もう少し経営に関して、しっかりとした・・。

いろいろな敗因を言いましたけれども、本当にやる気が出るようなというか、研修とか、そういうものをどんどんするべきだと思うんですけれど、それも少なかったんじゃないかと私は思うんですけれど、その辺もどうなんでしょうかね。

○町長（齋藤文彦君）　その点は本当に関議員の言うとおりで、私も反省しているところでございます。そこまでまだ・・、どうしても赤字を解消しろ解消しろということで、そこまで余裕がなかったというようなところがあると思います。

本当にやっぱり目で見ることが一番だと、体験してみることが一番だと私は思っていますので、そのようなことを本当はもっと先にやれば良かったと思うわけですけれども、そのようなことが足らなかったということは本当に感じているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

○６番（土屋清武君）　昨年も私はちょっと言いましたけれども、７ページの貸借対照表のところで、営業未収金が 2285 万 3461 円ですか、この額というのは、営業収益が２億 5000 万円ですから、約１割近いと思われるわけですけれども、前回聞いた時には、これはカードの換金化、そ

して、クーポンの現金化というようなことで、このような数字になっていると。毎月毎月、翌月に換金化するのが・・、事務職員がいてやるべきだと・・、私の時には・・、こんなことを言ってはあれですけれども、こんな記憶はないものですから、ちょっとここらを教えていただきたいと思います。

それで、関議員の今の質問とちょっと同じような関係になるかと思いますけれども、９ページに、「今後はまつざき荘に宿泊することを目的に何度もお客様が松崎町を訪れる宿に変えたい」と考えているということがうたわれているわけですけれども、この決算を見ても職員研修というのが・・、先ほど関さんは先進地視察と、それも一つです。ですけれども、宿舎の中で、指導員を呼んで、来ていただいて、仮に宿舎の人だったら、お客さんを受け入れる気持ちはどういうふうにしなければならない、また、送り出すにはどういうふうに気持ちをもって送り出さなければならないかというようなことの研修がちょっとこの決算を見ても見受けられないですけれども、そういうような職員研修というのは、昔はうんとやったんですけれども、見えないですけれども、いかがなものでしょうか。

企画の課長は当時のこともわかっていると思いますけれども。

○企画観光課長（山本　公君）　まず、未収金の関係でございます。2200 万円ほどあるかと思います。前回の補正の際にもご説明をさせていただきましたが、３月分のクレジットの関係が 1000 万円余りあるということでございます。あとは、公社の中にある下半期の現金の入金分ですとか、そういったものがありまして、2285 万円という数字になっているわけですけれども、クレジットの現金化に係る部分についても前回のご質問にあったかなと・・、２週間から１カ月位かかるという中で、こういう形になってしまっているというところで、それから、研修の関係は、私もまつざき荘におりまして、外に出る研修ですとか、あるいは人を招いての研修みたいなものとかというのを、土屋議員が営業支配人の時に一緒にやった記憶もあるわけですけれども、確かに、先ほど町長が申しますように、研修の部分というのは少なかったのかなというようなお話もありました。

まつざき荘に泊って、また来たくなるようなおもてなしをしていかなければならないわけですので、そういったものは当然やっていかなければならないなとは思っておりますので、今後そういったもの、外から招いてやっていくということも考えていかなければならないと思います。

昔は応接主任というしっかりとした方が指導をしたりとかということもあったわけですけれども、なかなか正規の職員も少ない中、臨時・パートさんが多い中でやっているわけですけれども、いずれにしても、営業している以上、やはりお客さんに何度も来ていただけるような施設を目指していかなければならないなというふうに思っております。

○１番（藤井　要君）　３点ほどちょっと聞きたいですけれども、確認もありますけれども、先ほど副町長の方が返済が 6000 万円とか言いましたけれども、4850 万円位、あとほかにあるのか。

それから、今度労務管理責任者が就きましたよね。今回、舩津君が管理責任者になるのかな。別にあるんですか。ちょっとそこはあれでしたけれども、労務管理責任者が就いたということ

になれば、どこからその給料とかが出るのかなとちょっと疑問がありました。

そういうことと、あと、今回４年間の連続赤字になりましたよね。そして、その間、いろいろ考えたんでしょうけれども、まだ町長はやれる余地はあると、改善する余地はあるということを先ほど言いましたよね。じゃあ、この改善する余地、若干ぽろぽろ出ましたけれども、もう一度明確にこういうようにやれば、ここが改善する余地があるんだと、そういうのをもう少し的確にお願いします。

○副町長（松本忠久君）　先ほどの借金の返済に 6000 万円位かかるというのは、元金の償還と利息とあるわけですので、それを足して 5800 万円位かかるということです。正確に言えば。大まかにざっくりと 6000 万円という話をしましたけれども、いろいろ元利償還だけではなくて、経費もありますので、そういうことでご理解をいただきたいと思います。

○企画観光課長（山本　公君）　今度施設管理係ということで、専属に専門ということで、舩津係長に就いていただきました。まつざき荘、振興公社の方と連携をとった中で、まつざき荘をどういうふうに改善していけばよくなるんだろうかということのもとに、４月１日から町長が配置をしたということになります。経費の関係は一般会計の中で、当然出ておりますけれども、まつざき荘ばかりではなくて、町営の施設の関係をみていたりします。ウエート的には、まつざき荘が多いわけですけれども、そのような状況でございます。

それから、やれること、どういうことを考えているのかというようなことでございまして、先ほどインターネットうんぬんというような形で、これまでの取り組みについて説明させていただきましたけれども、改善の中で、食事の関係の改善ですとか、あるいは閑散期というんですかね、お客さんが少ない時に値引きプランみたいなものを立てて、お客さんを誘致するとか、あるいはツアーのお客さんを誘致するとか、あるいは今まであるサポータークラブを更に積極的に活用していくというようなことの中で、今までよりも改善をしていきたいということで、改善プランみたいなものを立てているところでございます。

○町長（齋藤文彦君）　いま課長が言いましたけれども、いろいろ話し合って、松崎の・・、せっかくこんなに海の近くへ来て、夕食メニューがあまり良くないんじゃないかということで、喫緊にできることということで、夕食メニューの見直し、ツアー客の誘致と、そして、ちょっとこれはいろいろ話し合ったわけですけれども、部屋代をちょっと安くしようじゃないかというようなことを考えているところでございます。

○１番（藤井　要君）　返済の関係はわかりましたけれども、利息等がなかったということで、あとは、舩津さんのをやっぱりまつざき荘と一般会計で按分して、四分六分とか七三とか、そういうふうにしないと・・、まつざき荘の方を軽めるために一般会計から全額持つというようなことになるかと思います。そういう手法ができるわけですので、じゃあ、赤字にさせないために。そういう面も正確にやるべきだと私は思いますけれども。

それと、いまいろいろ手法がありましたよね。朝食メニュー、私なんかもこの前早速行って、どんなものかと行って食べてきました。自分的には朝、地元ですから、なかなか、わざわざ早く起きてここに来たわけですけれども、そういうので、お昼の食事なんかも変えたりとか、いろいろやるのも手かなとは思いますけれども、ですから、今まで４年間の・・、考え考えて、でも赤

字だったんだと、これをやれば来年度は黒字になるというような、そういう強い意志が町長、あるんですか。

○町長（齋藤文彦君）　これをやると絶対黒字になるという、今の経営者でそう自信を持って言い切れる人はいないと思います。非常に今は松崎を見回して、土曜日、日曜日に車で走っていても非常に伊豆半島に入って来ると少ないし、非常に観光にしてはいま厳しいところにきています。この中で黒字にしろというのはなかなか難しいところがあるわけですけれども、それに向かっていくしかないなと思っています。

皆さんは、まつざき荘が赤字赤字と言いますけれども、まつざき荘が景気がいい時には、松崎の一般会計にも２億円くらい入れているわけですから、そのようなこともぜひ考慮していただきたいなと思うところでございます。

○企画観光課長（山本　公君）　施設管理係長の給与に関しては、まつざき荘の方から出ているわけではございません。一般会計の方から出ておりまして、ほかの施設、観光施設の管理ともども行っているということです。中でも重点的にまつざき荘の相談に乗ったりとかしておりますけれども、そのような状況です。

○１番（藤井　要君）　ほかの施設もみるということで、一般会計から出して、まつざき荘の費用軽減に努めると、載っけないということで、理解しましたけれども、それはそれで考え方でいいですけれども、やっぱり本当は按分方式とかが一番いいと思うんですけれども・・。そういうことがあったみたいですけれども、私もいろいろ話をしましたけれども、やっぱり違うところに委託するとか、そういういろいろな話も出ています。どうしてもということになれば、私は最低２年間とか、１年でもいいと思うんですけれども、そういう短期の・・、５年間というんじゃなくて、そういういろいろ変動というか、使い勝手がいいようにするとか、そういう意味ですね。契約の。そういう方法もあるんじゃないかと、そして、例えば、業者さん、先ほど出ましたシダックスとか、そういうところと業務提携なんかをして、そして、どんどんお客さんを送ってもらう。南伊豆なんかはシダックスさんが、名前は元の会社ですから、いまやっている会社は違いますけれども、ブラジルのカーニバルじゃありませんけれども、雷門の所、あそこら辺のを呼んで来たりして、いろいろやっているわけですよ。そういうのと業務提携とかは考えるべきだと思うんですけれどね。その辺はどうですか。

○町長（齋藤文彦君）　先ほどから藤井議員、一瀬議員からいろいろあるわけですけれども、まつざき荘が本当に生き延びるためにはどうしたらいいかということを常々考えているわけで、私は振興公社でやりたいなと思っているわけですけれども、議員の皆さんにも民間に委託する場合、町はこういう条件で委託しますよと、皆さんに目に見えるような形で、近い将来示したいと思いますので、その時判断していただきたいと思うところでございます。

私は、まつざき荘というのは、本当に松崎の灯台だと思っていますので、ぜひ松崎で・・、振興公社を使うことになると思うんですけれど・・、やっていくのが一番いいと思うわけですけれども、なかなかそうはいきませんので、皆さんのそういう厳しい目で見てもらって、どのような形でいけばいいかというのを最終的に決めてもらえばいいのかなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

○５番（高柳孝博君）　決算の方では赤字になったということで、累積の赤字もあるわけですけれど、先ほども黒字になる、あるいは研修するという話があったわけですが、まつざき荘を、先ほど灯台という話もありましたけれど、実は、まつざき荘は唯一町として経営というもののモデルになり得るところなんですね。言ってみればね。

だから、まつざき荘ができる・・、町の中も結構厳しくて大変なんだけれど、まつざき荘でこういう経営をしたら、ほかの町も経営できるんだくらいの意気込みでやって欲しいと思うわけです。

１点、この総括事項の中の１行目で、厳しい経済情勢や東京スカイツリー、新東名高速道路の開通などにより、観光地が厳しい状況にある、これは一般の経営の中では、周りの環境はこうだから、厳しいからこそこういう施策を打たなければならないということでやるわけですね。それを当然これをよく地震が起きたから、売上が出ませんでした、そうじゃなくて、それを読んで、経営者というのは途中であってもそういうことがあったら当然今までのやり方ではもう赤字になると、それ以上のことをやらなければいけないというのが経営ではないかと・・、私も直接携わっているわけではないので、困難かと思います。一般的にそうではないかと思います。

これからのやり方というのもあるんですが、まず、過去にやってきた体験プラン、そういったもので本当にお客が来ているのかどうか、いつもルート毎にそれぞれ反省して、ルート毎にどれだけ増やしたら来るかということをやったらどうかと何回も提案しているわけですけれども、それが１点あると思います。じゃあ、今後どうするかという話の中で、先ほど研修という話がありました。ここにサービスの向上、宿泊プラン、体験プランとかはもう今までもやってきたわけですよね。

だから、１回やって、あるいは３回やってだめだから６回、６回でだめなら 60 回とか、そういう考えでいくなら、またあるかもしれませんけれども、まず、なぜ来ないか・・。実は、周りは厳しいけれど、来ている所もある。回転率の高い所もある。これは条件は同じであってもあるわけですよね。だから、そういう所を良く学ぶというんですか、１点、サービスというものに対しての考え方。サービスの向上と安易に言っているんですけれど・・、ここから一つずつ聞きましょうか。サービスというのをどのように考えていますか。まつざき荘におけるサービスは何か。

○議長（稲葉昭宏君）　答弁はだれですか。

○５番（高柳孝博君）　町長に。

○町長（齋藤文彦君）　まつざき荘におけるサービスといいますか、あの蔵らさんに入っていきますと、本当に何と言いますか、親戚に来たみたいな感じになって、本当にいい気分になりますので、ああいうのが本当の私はサービスだと思っています。

ただ、いま高柳議員がどのくらいの企画とか何とかをやったら何パーセント来ているうんぬんという話がありましたけれども、前の議会で関議員から数字が目に見える形にした方がいいということを言われていますので、それなりに調べた数字がありますので、また後で、もしあったら出しますので。

○５番（高柳孝博君）　例えば、割引、今回チラシも出ましたね。安くしたら来るんじゃないか。

だけど、安くするだけではなくて、お金は高いんだけれど、来るという所があるわけですね。なぜか。そこをやはりみていく必要があると思います。本当にまつざき荘が高いから来ないのであれば、下げれば来ますよね。そうでなければ、ほかの要因も考えなければならないと思うんですよね。

一つ、先ほどサービスということを上げましたけれど、私はいつも言うんですけれど、石川県の和倉温泉という所に加賀屋というのがあるんですね。加賀屋でやっているサービスはまずおもてなしだと、そのおもてなしがちょっと違うんですね。よく形に見えないんですけれど、風呂が良い、食事が良い、あるいは建物がきれいだ、庭園がある、こういうのは形で見えるんですけれど、サービスというのは見えないですね。だから、そのサービスが、加賀屋が言っているのは、おもてなしというのは、お客様一人ひとりのニーズを先に把握して、それをしてあげることがおもてなしだと定義しているんですね。定義してやっている、それくらいのことをやらないと・・、その定義が始まるとおもてなしの所に人も使うんですね。先ほど３人減らして、11 人にしたと言っていますよね。だけど、加賀屋が人を使うところで一番使うと言っているのは、接客のところに人を置いているんです。接客はプロでなければならない。なぜかと言うと、ニーズを把握する人だから。

そして、接客に関わらないところ、例えば、食膳を運ぶ、それは機械化する、そういったことをして、何が無駄で何が必要かということを・・、お客のニーズを把握して、お客のサービスに直結するかどうかで判断しているわけです。そのあたりの考え方というのはある程度・・、先ほど研修という話もありましたけれど、そこら辺を取り入れていくというか、そういう考え。それから、人の先ほどの・・、ちょっとわからないのが、３人減って 11 人になったという意味が・・、どういう使い方をされたのか。本当に今のところでサービスに繋がるようなことが起きてくるのか、人をそういうふうにしたということがサービスに繋がっているのかどうか。

先ほどサービスはやると言っているんですが、サービスを向上させるためにそういう人材が動いていったのか、あるいはこれから育てようとしているのか、そこら辺の考えはいかがなんでしょうか。

○企画観光課長（山本　公君）　サービスということでお話がいろいろあったわけですけれども、一回来たお客様が何度もリピートしてくれる宿というのが、やはりいい宿ではないかなと思っておりますし、まつざき荘はリピーター率が 46.3 パーセントというようなことがございます。24 年度ですね。その前が 42.7 パーセントということですので、そういう意味では少しずつではありますけれども、増えてきているのかなという気はします。

ただ、お客様が求めている以上のサービス、びっくりするような、そういうものが提供できれば感動を与えるわけでして、そういうことを受けたお客さんはまた来てくれるというような感じになろうかと思います。

それから、体験の関係なんかでいろいろあるわけですけれども、何がどれだけと細かくすべて取っているわけではないわけですけれども、例えば、わさびの体験ですとか、あるいはホタルの体験ですとか、それは当然ないよりは、あることによってその施設のサービスになるわけでございまして、前もお話をいたしましたけれども、岩地で修学旅行をいま受けているわけです

けれども、岩地で宿が取れないよといった時に、まつざき荘が宿泊を受けて、体験を行って帰ったというような事例もありますので、そういった部分の活用というのも当然必要かと思います。

まつざき荘の方でいろんな体験メニューを作って、それを外で使っていただくというようなことであれば、それはまたほかの宿泊施設の参考にもなるのではないかなと思います。先ほど言うように、まつざき荘が一番のモデルになって、ほかの皆さんを引っ張って行ければ一番いいわけですけれど、なかなか厳しい状況もあるという中でやっておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

それから、人数の関係ですけれども、３人切ったわけではなくて、諸事情があって辞められたりという部分もありまして、その分を臨時さんが増えて 24 が 35、人数が増えておりますけれども、そこで不足分を補ってやっているというところでございます。

○５番（高柳孝博君）　人が多ければということではないんですけれど、人が少なくても同じ業務が出来ればいいに決まっているんですけれどね。やっぱり人を最繁時に合せることは、まずないですよね。そうすると、閑散時の時にできるサービスが繁盛期になったら、ほかのところからいく、例えば、動かせないのは・・、接客の人は動かせないですね。ニーズを把握する人はプロでなければならない、ところが、奥でやっている経理の人であるとか、総務であるとか、そういった方が例えば、売店に立つとか、あるいはロビーに立つとか、そういう教育とか何かもあれば、繁盛期に合せなくても人の流動というのはコストの関係で助かるわけですよね。そのあたりをやると、かなり、先ほど研修とかありました。だから、多機能な人というか、ただ、やっぱり接客とかそういったところは代えられないと思います。

もう一つ、事例で言いますと、加賀屋にお客さんが来ました。来た時に、担当ではない方が、「前にも来ていらっしゃいましたね」と言われて、ものすごく感動したと言っているんですよね。これはすごくあれなんですけれども、そういったところまで人ができてくれれば、お客は逃げていかないのかな。

沢田の方の民宿でも、お客が「ただいま」と言って入ってくる。それはなぜかと言うと、その人がそこで受けている感動のものがあるわけですよ。だから、そのあたりも含めて今後まつざき荘をもっていったらいいかというのを議論していただけたらと思います。

そういった育成の考え方、先ほど人を入れるとか、入れないとかあったんですが、そのあたりの考え、もしこれから改善策を作られるのであれば、そういったものを含んだ・・。

料金を安くすれば来るというんだったら、確かに、高いんだったら来ますけれど、そうでなければ来ないんではないかと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　高柳議員と関議員のと同じようなことになると思うんですけれども、私は観光というのは人だと思っています。宿泊施設運営委員会の中で、この前火事になりました浅草のやぶそばの話が出て、あのお母さんの声を聞くためにみんな集まりに来たというような話がありまして、佐藤作行議員からもきれいな女子大生を夏の間は支配人にして、バイトで雇えとか何とかといろいろ面白い話があって、そういうこともやっぱり私は必要だと思いますけれども、なかなかそこの人までが育つまでになかなかいかないのが非常につらいところで、ぼくらも旅行に行く時に、あの人に会いたいなというのが半分以上ありますので、そのようなこ

とをやっていけばいいと思うわけですけれども、そういうのはいろいろ積み重ねてやってくということで、先ほど一瀬議員が言ったように、やっぱりこれから本当にまつざき荘がどうやっていくかということで、自分たちもちゃんとこうやっていきたいということで、もし民営でお願いする場合、こういう条件で、こういうようにやりますよというようなことをやっぱり皆さんの目に見えるような形にしていかないとなかなか進まないと思いますので、そのようなことをなるたけ早めにやっていきたいなと思っています。

○１０番（鈴木源一郎君）　私は観光というのは、非常に宿の経営という素人でわからないですけれども、町営のまつざき荘という存在は松崎を考える場合にやっぱり欠かせない存在じゃないかと、まつざき荘がない松崎、これは考えられないじゃないか。

当然地域貢献の上でも、もちろん欠かせない存在ではあるでしょうけれども、まちづくりの上で欠かせないというふうな位置付けをもっているんじゃないかと思うのですが、そこのところはどうですか。

それから、いま非常に厳しい情勢の中で、全国公共の宿は 100 とか 150 とかあるそうですけれども、その公共の宿の中で、まつざき荘の位置はどんなところで、このところ年次どんな推移をたどっているのか。

それで、こういうどこどこ荘が、一応まつざき荘が目指すモデルにおよそ近いんじゃないかという存在を指摘できるというか、ある宿というのは、公共の宿というのはどこかにあるんですか。ないですか。そこの説明をいただきたいと思います。

○企画観光課長（山本　公君）　まちづくりの機関というんですか、施設ではないかというようなことで、当然昔から地元雇用の拡大あるいは地元の調達あるいは観光の先兵としての役割を果たすというようなことの中で、まつざき荘はこれまで運営をしてきております。

当然人件費あるいは地元調達等々を含めまして、これはいつも議論になるわけですけれども、１億 4000 万円位のものがあるというようなことになります。

それから、公共の施設の中でどのくらいの位置にあるのかということですが、全国で国民宿舎みたいなものが 114 ほどあるそうですが、その中でまつざき荘は 22 位です。全国の宿泊利用率の平均というのが 31.8 パーセントというようなことで、まつざき荘は 39.8 パーセントというようなことでございますので、その利用率からすれば高いわけですけれども、やはり黒字というところの数字になりますと、47 とか、そんな数字がこれまで議論されておりますので、なかなかまだ厳しいかなという感じはしております。でも、全国の 114 の中の 22 位という位置付けでございます。

どこをモデルにするかというのもなかなか難しいわけでございますが、例年毎年ずっと１位をとっているのが、茨城県の鵜の岬という所のようです。そこは 85.8 パーセントというような利用率でございますけれども、以前研修にも行ったことがあるのではないのかなと思っておりますけれども、それら上位のところも今後研修の中で、行って様子も見て来るというのも一つの勉強かなというふうに思っておりますので、先ほど研修のお話もありましたので、そういうものも考えていければいいかなと思っております。

○町長（齋藤文彦君）　まつざき荘の考えに対しては・・、鈴木議員とはいつも意見が全然合わな

いわけですけれども、これに関してはそのとおりだと思っています。

○１０番（鈴木源一郎君）　全国で 22 位ですか、22 位が現在だと・・、この年次推移といいますか、この２～３年とか、年次推移はどうですか。

わがまつざき荘の経営がほかの全国から見ても、どうも稼働率がじわじわ、じわじわ下がってくるということになると、平均的な数字、平均的な話になるわけですけれども、経営の合理化あるいはＰＲの仕方が何かまだ不足があるのではないかということが起こるわけだけど、そこはどうですか。

それで、鵜の岬というのも聞くわけですけれど、鵜の岬というのは、関東にあって日立製作所や何かも近所にあったりして、何か立地条件あるいは部屋で売るというようなこととかがあるようにも聞くわけですけれども、そういうようなことを少し立ち入って分析して、やはりわが町のまつざき荘の経営はもっと極限に近いような採算面の合理化を一方ではしていく必要があるということもあるわけですから、そういうことで、そこら辺の答弁をしてください。

○企画観光課長（山本　公君）　利用・・、その順位の推移ということでございますが、わかっている、ここ３～４年で申し上げますけれども、21 年の時は 18 位でした。22 年が 25 位、23 年が 26 位、24 年が 22 位というようなことで、若干横ばいというような状況でございます。

鵜の岬がなぜ高いのかという部分については、ちょっとはっきりしたことはわからないんですけれど、昔、会議とか何かの利用もあって、そこを使ってというようなことも聞いておりましたけれども、またそういった高い施設の利用については、分析をしてどのような形の中で運営がなされているかということをまたまつざき荘としても当然勉強する必要があるんだろうなと思いますので、また研究をさせていただきたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君）　佐藤議員、ありませんか。福本議員、ありませんか。

○１番（藤井　要君）　この問題は６時でも７時でもやれということになればやれると思うんですよ。やっぱりある程度のところで区切りも付けてもらわなければならないと思いますし、今まで「こうすればよくなるんじゃないか」というような議論がかなり先行しているわけですよね。

副町長が一番この中では長いわけですので、まつざき荘がここが悪かったと、ここを改善すれば良くなるんじゃないかと、悪いところを・・、マイナスをプラスにすれば良くなるわけですので、その裏を返せばいいわけですので、その一番の悪いところというか、マイナスのところをお願いします。

○副町長（松本忠久君）　私が戦犯だと言ってしまえばそれまでの話でしょうけれども、行財政の合理化を進める中で、元々振興公社推進本部というのが町の町長の下にありまして、そこに課長クラスがいたわけです。そこで町長の意を酌んで、振興公社のすべての施設に目を光らせて、まつざき荘ももちろんですが、やっていたという時期があったわけですが、それが合理化の一環の中でそれを廃止して、振興公社にしてみれば、縁を切られたみたいな形になったのが一つ、公社の運営がうまくいかなくなった原因の一つかなというようなことで、いま反省をしているわけですが、私も実は、まつざき荘へは行ったことがないんですよ。優秀な職員は昔は研修の一環として、まつざき荘に行って、その実績をひっさげて役場の係長になった、課長になった

ということでやっていたわけですけれど、そういう面で多分に目の届かない部分がありまして、大変申し訳なく思うわけですけれども、町長が先ほど来言っているように、なるべくと言いますか、もっと町長部局と公社の方の職員との意思疎通ができるようにということで、昨年、一昨年あたりからやっているわけですけれども、なかなかその辺がうまくいかないということも原因の一つかなと思います。それで、やることが後手後手に回ってしまうというのが実態ではないかと思います。

○議長（稲葉昭宏君）　先ほど町長の方から振興公社に続投してやりたいという話がありました。振興公社の委託が今年いっぱいで切れるわけですよ。そうしますと、９月議会あるいは12月議会に当局の方が提案をしてくると思うんですね。そうすると、今のこの決算審議というのは、当局に我われ議会の方が注文をつけるにはいい機会のわけです。

ですから、ある程度じっくりと皆さんがこの問題には意見を言っていただきたいと、そういうことで時間をだいぶ延長してやっているわけでございます。ですから、活発な意見をどんどん言っていただきたいと思います。

続けます。

○１番（藤井　要君）　先ほど言いましたけれども、副町長は振興公社からその切り替えの時が何かうまくいかなかったということになりますと、それを解消すれば、裏を返せばうまくいくということになるわけですよね。よろしいですね。そういう考えでも。

○副町長（松本忠久君）　裏を返せば表になるというそう簡単なものではないと思いますけれども、原因の一つであろうと、それから、先ほど来ほかの議員さんからもその情勢が悪かったとか、地震が来たとか、そういうことを言うんじゃないと言われていますので、なかなか言えませんけれども、その時代ちょうどそういう悪い時代に当った部分もあるのではないかと思います。

○２番（福本栄一郎君）　個人的じゃないですけれど、先ほど５番議員の高柳さんが加賀屋という固有名詞を出しましたけれども、加賀屋うんぬんと言いましたけれど、確かに旅館・・、これはホテルですよ。ずっとおもてなしナンバーワンです。そして、この近くの銀水荘さんも上位にいっています。そこが・・、客の単価が違います。これは１泊２食9800円でしょう。むこうは大体５万円以上。まだ固有名詞を出してやりましょうか。国際的におもてなしが抜群のところは・・、あえて出します。よろしいですよね。固有名詞・・、帝国ホテル、ホテルオークラ、ニューオオタニです。これは国際的な品格・・、それは別に彼に攻撃するわけじゃないですよ。その中でいかにして、どうするかということを私は言いたいんです。

そこで、この概要の総括事項、９ページです。「宿泊することを目的に何度もお客が松崎町を訪れる宿に変えたいと考えています」こういった後ろ向き的なネガティブな発想じゃだめですよ。もっとポジティブにやっていかなければ。

そして、料理のメニューを変えたり体験プラン・・、こんなことなんかどんぶりの中の嵐ですよ。町長。もっと積極的に・・、静岡県では静岡空港を使って中国から東南アジアから、いっぱいいるでしょう。

最近では、県道２２３号、海の上ですよ。どうしてそういった・・、積極的に打ち込んで、外国人あるいは首都圏、関西圏、中京圏から引っ張って来るお客はないですか。

それで、その考え方とここでまったく私としてみれば禁じ手、使ってはいけない手で職員賞与のカットなどをしている。だったら、聞きます。あたなは理事長でしょう。あなたはどうですか。

そして、３点目、広報５月号、「町長室からこんにちは」５Ｓ運動、いいですか。「整理」・「整頓」・「清潔」・「清掃」・「躾」、私が一般質問で今日やりましたけれども、これは本来は民間企業の発想じゃないですか。

いかにして赤字から脱却する、黒字にもっていくという考え方がここから来ているんですよ。おそらくそうだと思います。経営改善の手法で。この辺の結びつき。

それから、もう１点、高柳議員の質問で職員の和が・・どうですか、確かに先ほど答弁しましたよね。こうなると、一人ひとりが主役となり輝くために・・、６月号が人の和、社会の和と書いてあります。その辺を含めて町長の考え方、意気込みをお願いします。

○町長（齋藤文彦君）　ある人が東南アジアから日本の成田に着いて、日本はだめだなと感じたということがありましたけれども、いま東南アジアは非常に・・、何と言いますか、ちょうど日本が高度経済成長の滑走路を飛び上がっていた時と同じような感じで、非常に燃えていますので、そのような所から台湾とかシンガポールの方に静岡の事務所があるそうです。今度７月に首長会議でシンガポールに行くというような話が出ていますので、そのようなこともやっていきたいと思っています。

ただ、そう簡単にお客さん来い来いと言ったって、なかなか来れるものじゃなくて、非常に難しいところがあります。

また、そう簡単に福本議員が言うように、ただ行ったら来るというような感じのものでもないと思っていますので、非常に難しいと思います。

また、人の和とか何とか言いますけれども、それはいろいろ難しい問題があって、そう簡単にはいかないわけで、いま一生懸命やって苦労しているところですよ。

○２番（福本栄一郎君）　ですから、簡単じゃなくて・・、あなたがトップセールスとして振興公社の理事長、トップセールスしてお客を積極的にどう呼び込むかということです。

日本の人口が１億 2800 万人位いるでしょう。全部とは言わないですよ。それ以外にこのアジアで約 30 億人位いるじゃないですか。いま全地球 70 億人の中に確か 35 億人位いると思います。これは範囲は広いですけれど、その中で満杯の・・、わずか 150 位の定員でいっぱいにする・・、町長の努力、前向きな姿勢が足りないということです。

それと同時に、職員の給料をただ減らせばいい、人件費が確かにカットになればなりますけども、こうなると職員がやる気がなくなるじゃないですか。新聞の切り抜き・・、平成 25 年５月 24 日、伊豆新聞記者コラム、ちょっと朗読しますと、『先月の選挙戦で初当選したある自治体の新首長は、就任のあいさつで県内下位にある職員給与の引き上げについて言及し、「給料を上げても住民から不満が出ないまちづくりを」と訓示したという』、そして記者の感想も書いてありますけれども、こちらはいいです。こういったことでもっと積極的に打って出たらどうでしょうか。

静岡空港と海の上の県道２２３号とこのまつざき荘をタイアップするトップセールスの考え

はないでしょうか。もう一度お伺いいたします。

○町長（齋藤文彦君）　そのようなことも考えてやっていきたいと思っていますので、その時には一緒に労働してください。よろしくお願いします。

○２番（福本栄一郎君）　その時は、要請があっても、私はそういった権限がないから断りますけどね。そうじゃなくて、そういったひとごとじゃだめなんですよ。自分自ら経営責任として・・、私も・・、今日もまた繰り返しますけれども、いまちょうど民間では株主総会です。同じように株主総会で株主がいっていると思いますよ。責任問題じゃないですか。社長の。株主総会をやっていますよ。そして、その利益配当・・、株の配当もゼロになった場合は、みんな逃げていきますよ。売却・・。いま株価が下がっているそうですけれども。こうなると会社の経営が行き詰るでしょう。株主が逃げると。

　そうなると、金融機関にも見切りをつけられて、自然退職ですよ。運転資金が回りませんから。その意気込みがあなたにはないじゃないかということです。もう一度決意を改めてお願いします。

○町長（齋藤文彦君）　誠心誠意意気込みを持ってやっているわけですけれども、町民の目から見たらそのように見えるのは非常に残念なわけですけれども、その福本議員の声を鞭として一生懸命やっていきたいなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君）　ほかに質疑はありませんか。

○５番（高柳孝博君）　いま帝国ホテルの話がありましたが、私は帝国ホテルになれと言っているわけではないです。だから、小さい民宿でさえサービスの精神があるじゃないかと、そこを酌んでいただきたいと思います。

　それで、もう一つ、指揮系統ですね。今度施設管理者というのができたということなんですが、一方で支配人とかがあるわけですよね。あるところでは、その指揮系統というのを一つにして、接客係が掴んできたニーズをあるところ、一つのサービス係みたいなものがあって、そこへ言うと、例えば、この人は風呂を望んでいるといったら、どういう風呂がいいかというのを全部そこが手配する。接客係が手配してしまうと、接客係が風呂場の所あるいは食事なら食事のことを手配するということなんですが、接客係がお客さんと接する時間がなくなるということで、指揮系統を一つにするということ、そのあたりが今度施設管理者もできてきて、その方がアドバイザーになるのか、あるいは支配人、誰がその販売の方と購買の方とマーケティングの方と施設の管理もあるでしょうけれど、そのあたりの責任をどういうふうにもっていこうとしているのか。いつもよく施設管理者が来た時に、責任がどこにあるのかというのがよくわからないというところがあるわけですけれど、そのあたりは施設管理者の責任と支配人が持つもの、あるいは指揮系統として一括で手配できるようなところがあるのかどうか。

○企画観光課長（山本　公君）　これまで町と公社との関係が切れている部分があったということの中で、やはりお互いに連携を図って強化をしてやっていこうということの中で、これまで兼務であった施設管理係というものを兼務ではなく置いたわけでございます。向こうの総支配人あるいは営業支配人等々と協議をした中でいろんなものを進めていく、当然理事長、副理事長も町長、副町長という形でいるわけですけれども、そこは連絡をうまく取りながら、やはり町

の施設でありますので、それは改善を図って売上に繋げていくというようなことでございます。

それから、やはり「ただいま」というようなお話もありましたけれども、「おかえりなさい」というようなことで、迎えられるような形の施設でありたいと・・。

値段以上の対応ができれば非常にいいことではないか、感動をそこで生むのではないかなと思いますので、いろんなものを組み合わせながら、やはりやれることはやっていくということで考えているところです。

○議長（稲葉昭宏君）　質疑終結の声がありますので、質疑を終結したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君）　異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

（発言する者なし）

○議長（稲葉昭宏君）　反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○８番（一瀬寿一君）　本案に賛成をいたします。

私も先月までこの監査をやっておりまして、監査の結果は適正かつ正確でございました。こういうことで、監査におきましては、素晴らしい結果でしたけれども、ただし、決算は2600万円ほどのマイナスになっておりますが、これは皆さんから先ほどいろんな議論が出ました。

今後の問題としては、大変いい議論ができたと思いますが、この決算につきましては、この辺で終結して、私は賛成いたします。

○議長（稲葉昭宏君）　これをもって討論を終了します。

これより議案第49号　平成24年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつざき荘」事業会計収入支出決算の認定についての件を挙手により採決いたします。

本案は原案のとおり認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手全員）

○議長（稲葉昭宏君）　挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり認定されました。